

いじめを通して

兵庫県 多可町立中町中学校 3年

吉川 亜未（よしかわ あみ）

小学生の頃から中学生になってもある「いじめについてのアンケート」。あの時まではこのアンケートは意味のないものだと思っていた。いつも「いいえ」に丸をつけて回収されるその紙は、私にとってただの紙切れだった。でも、私が小学五年生になった時、そのただの紙切れだと思っていたアンケートは、私を救ってくれる唯一の命綱のように思えた。

クラス全員から無視された。聞こえるように悪口を言われ、楽しく話している子達は皆私の悪口を言っているのだと思った。言われたことをしなければ暴力を振るうと脅された。全く関係のない責任を押し付けられた。いじめられていた頃はクラスメイト全員が敵に見えた。クラスに入る瞬間のあの冷たい空気と視線は今でも鮮明に思い出せる。誰も口を利いてくれない訳でもなく、ニュースやドラマの様なひどいものでもなかったが、まだ小学生の私にとってとても辛いものだった。そして原因も分からないままずっと耐えていた。

そんなある日の「いじめについてのアンケート」。今まで全く必要だと思っていたいなかったその紙切れの「はい」に初めて丸をつけ、私をいじめていた子達に見つからないように提出した。これで全て終わる。すぐに学校が楽しくなる。まだ小学生だった私は単純にそう思っていた。

ニュースでたまに見かけるようになった子どもの「いじめ」による自殺。そのニュースを見るたびに私は「自殺を防ぐ方法はなかったのかな」と思う。ニュースではまた男子中学生が命を落としていた。彼は色々なことを一人で抱え、自ら命を絶った。しかし、彼はしっかりとSOSを出していた。生きようと、今の状況から抜け出そうとしていたのに。どうして周りの人達は彼の精一杯の叫びを受け止めてあげることができなかったのか。彼は毎日の日記でそれを訴えていたらしい。救えるのは担任の先生だけだった。先生の行動次第で彼の未来が変わったかもしれない。私の場合、「いじめについてのアンケート」の「はい」に丸をつけたことで、学校に気付いてもらえた。両親にもうちあけることができ、状況は変わっていった。両親が学校に出向いてくれたり、他のクラスの友達が励ましてくれたり、学校中の先生達が私を守ってくれたり。その力を借りることができたお陰で「いじめ」が辛く苦しい思い出から、自分自身が大きく成長したように感じる事ができた。例えば、いじめにあったことで相手の気持ちをより深く考えることができるようになった。一度言った言葉はもう取り消すことはできない、

そう思いながら相手にかける言葉の一言一言を大切に伝えようと思えるようになった。しかし、今でも時々「今私の悪口を言っているんじゃないか。」など、急に怖くなることもある。「いじめ」のことを完全に忘れたと思っけていてもやはり傷は消えていないのだ。それは私だけでなく今までいじめられたことのある全ての人があるのではないかと思う。

「いじめ」を乗り越えた時、人は大きく成長すると思う。でも「いじめ」は決して許されない。いじめはなぜ起きてしまうのか。学校という小さな社会の中で自分と反りが合わない人や苦手な人がいるのは当然で、その人とうまく付き合っていくのは本当に難しいと思う。一人ひとり個性があって自分の「普通」が相手の「変わっている」になっているかもしれない。自分が全て正しいと思ひ込み考え方の違う相手を批評する。それが「いじめ」につながってくると私は思う。一概に「いじめをなくす」と言っけて簡単になくなるものではない。だから今「いじめ」をしている人はもちろん、ただ周りで見ている人やまだ幼い子ども達にも「いじめ」というものの残酷さや醜さを知っけてほしい。私一人の小さな力ではどうにもできないけど、まずは一人ひとりがいじめる人にも、見っけてだけの人にもならないこと。そして、一番大切なこと、それはもしもあなたが心ない人達にいじめられたとしても絶対に命だけは捨ててはいけなないということ。今の状況が辛いのであれば逃げたらいいい。しかし、自ら命を絶つような逃げ方だけはしてはいけなない。「死」が怖くなくなるほど絶望に陥っけているかもしれないが、あなたの命が消えたとき、一番深く傷つくのは誰だろう。それは、あなたをいじめた人でも周りで見っけていた人でも先生でもなく、あなたの両親である。そのことは決して忘れてはいけなない。あなたが一番大切にしている人を、あなたを一番大切に思っけている人を傷つけないでほしい。あなたを救う人は必ずどこかにいる。今、私はここにいる。私を救っけてくれた人はもちろん、私を成長させてくれたいじめっ子にも少し感謝している。

心ない行為で深く傷つけられた世界中のすべての人々の傷が一日でも早く癒えますように。いつかこの世界から「いじめ」がなくなりますように。